

G

グランシップマガジン
[ジー] vol.36

GRANSHIP magazine
AUTUMN 2007

SPECIAL

話芸は和芸。

次代を創る顔

お笑い芸人 ラバーガール

しずおかアーティスト・リレー

彫刻家 本柳 礼文

SERIES わが羅針 第36回

野村 喜和夫

小特集

木村伊兵衛の昭和

育つチカラ 育てるチカラ①

村松友視の文化漫遊②②

ART:YUKUO MURAKAMI

GRANSHIP
静岡県コンベンションアートセンター



「単純に笑わせることだけを考えればいいから」
何よりもライブが好きだというラバーガールの単
独ライブVol.2「ブラッシュバック・スピノーネイタリ
アーン」(2007年3月20・21日／恵比寿エコー劇場)
が今夏DVDに。ただいま、発売中。

お笑い芸人 ラバーガール

年をとるのが楽しみ。できれば、
好きなコントをずっとやり続けたい。



飛永 翼(手前)と大水洋介

「クラスの面白いヤツ」二人がそれぞれ故郷の静岡
と青森を後にして、養成所で出会ったのが6年前。
密かな自信はあり、周囲の評価も悪くなかった。が、
数年前、オンエアに乗らないという経験が相次いだ。
「落ち込み、悩みました。これは相当まずいぞ、と」
そうしてわかりやすく作り替えたネタが、メジャー
番組の目に留まった。災い転じて…である。

自らを「1位を取るタイプではない」という二人。
年頃には「頑張れば手が届きそう」な目標を掲げ、
毎年クリアしてきた。そんな彼らの野望とは、「この
仕事をずっとやり続けられること」。年齢を重ねる
ごとに幅を広げて、多くの要求に応えられるよう
になりたいという。「おっさんになってもコントをや
れたら、カッコイイなあと思うんですけれどね」

ラバーガール

共に高校卒業後、お笑い養成所であるスクールJCAに入校。卒業後、プロ
として活動。ライブで活躍のほか、NHK「爆笑オンエアバトル」「平成17年
度NHK新人演芸大賞」本選進出、また、NHK教育「ことばおじさんのナツ
ク日本語塾」にレギュラーとして出演中。さらに日本テレビ「エンタの神様」、
TBS「ゲンセキ」、フジテレビ「爆笑ヒットパレード」など多数出演。アメーバ
ニュース(<http://news.ameba.jp>)にて「ラバーガール一生の趣味」連
載中。ボケ役の大水洋介は青森県出身、ツッコミ役の飛永翼は静岡県出身
(現掛川市)の24歳。プロダクション人力舎所属。ちなみに「ラバーガール」
というコンビ名は、ロックバンドGRAPEVINEの曲名から拝借とのこと。



Contents

次代を創る顔③⑥	2
お笑い芸人 ラバーガール	
しずおかアーティスト・リレー⑩	3
彫刻家 本柳 礼文	
SPECIAL 特集	4

話芸は和芸。

series わが羅針 第36回	11
詩人 野村 喜和夫	
「干渉と、反発と。」	
coming soon I	15
グランシップサロンコンサート vol.2	
イタリア民謡とオペラアリア	
小特集	16

木村伊兵衛の昭和

グランシップペンクラブ 多々良 栄里 (フォトグラファー)	19
育つチカラ 育てるチカラ①	20
Report1 音楽家と子どもたちのための「音楽体験プログラム」	
Report2 第1回グランシップクラシックバレエコンクールinしずおか	
Report3 第28回 静岡県学生音楽コンクール	
essay 村松友視の文化漫遊②	22
「本多君のお母さん」	画/風鈴丸

information a-go-go	24~30
●公演情報	
●Just Finished! / 「サクセスプレイヤー MALTAさん」 ●プレゼント	
●友の会のご案内 ●SPAC NEWS ●TOPICS	
●TRY GRANSHIP	
●SUPPORTER's VIEW READER's VIEW Editor's room	



(2006年制作)

表紙アート●村上 征生 作品タイトル:『無心』
緑のケープの女の子の夢は、大きなブナになり、北の大地でお話し作りをすること。「どうしてブナなの」と聞くと緑の精の人形もいっしょになって「ブナの林はお話がいっぱい。秋から冬はいろんなキノコや動物たちがやって来て、楽しい話を聞けるの。人が聞いたことない話だから二人でみんなに伝えたいの。もちろん春のも夏のもね。」

しずおか

18

アーティスト・リレー

彫刻家
本柳

礼文

次回
日本画家
今川 教子さん



『百姓』 2002年 132×46×22cm 素材/FRP、綿布、縄

交差点で悪魔に魂を売り
最高の音を手に入れたブルースマン
描けない耳をそぎ落とし 自画像を描いた画家
周囲の反対をおし切り 風船でアメリカへ向かい
風に散ったおじさん

自分の身を捨てても 最高表現をする人間に
あこがれる僕は 冷たいビールも
かわいい女性も ふかふかのベッドも
我慢する事ができない

もとやなぎ れいもん●1973年東京都世田谷区生まれ。以後、静岡県富士宮市、静岡市(旧清水市)に移り住む。'02多摩美術大学美術学部彫刻科中退。展示/'00「Fried rice」、'02「本柳礼文展」、'05「石橋貴男と本柳礼文」、'07「Reimon Motoyanagi」

話芸は和芸。

「言葉は最高の

おもちゃ」と語ったのは詩人大岡

信氏だが、そんなおもちゃを世界でもっとも

楽しんでいるのは、もしかしたら日本人かもしれない。

片や扇子と手ぬぐいを自在に操って、笑いを誘うかと思

えば、片や張り扇をバンパンと叩いては、史実を独特のリズム

で語ったり。あるいはメロディに乗せ、節と啖呵で演じ語る者あ

り…と、まわりを見渡せば、日本には実にさまざまなスタイルの

「話芸」があるではないか。もちろんアメリカなどにも、マイク一本

で観客を笑わせるスタンダップコメディなるショービズもある。

ヨーロッパにも話芸はそれなりにあるだろう。しかし、日本のよ

うに話芸において圧倒的なスタイルをいくつも育ててきた国

はほかにない。漢字能力や日本語力への興味もにわかに

上昇中の近頃。「書き言葉」とはまたひと味違う

「話し言葉」の面白さにふれるとき、日本語の

魅力、話芸への興味はさらに大きく

深くなるはずだ。

（落語「粗忽の使者」より）

(落語「お七」より)



出囃子に送られ、6尺×3尺の一段高い席から失礼を。



面白話、歴史語りに人だかり。すなわち「人寄せの席」。



日本の話芸の起源は、仏教界の説教にアリ。

弟子は師の半芸に至らず (講談「田宮坊太郎」より)

高座とは、本来、寺院などで説法などのために僧が座る一段高い席のこと。広辞苑には、「転じて寄席で芸を演ずる席」とあり、文化4年(1807)、寺社奉行より幅6尺×奥行3尺の台の設置が許されたのが起源。俳優が立てば舞台だが、噺家などが話芸を繰り広げれば、そこは高座。話芸が主体のため、背景に絵を描いたり、小道具を置くことはなく、噺の情景はお客さまのご想像を、という趣向。寄席では、「一番太鼓」「二番太鼓」「はね太鼓」と呼ばれる太鼓が開場、開演、終了の合計三回鳴る。前座によって「めくり」がめくられ、次の出演者が観客に知らされると、出囃子が流れ、出演者はいよいよ高座へ、と相成るわけだ。

江戸時代、寺や神社の境内、あるいは町の一角で、集まってきた人々に面白話や歴史物語を聞かせる「辻噺(つじばなし)」「講釈(こうしゃく)」などが寄席の始まり。その後は茶屋や噺家の家など、屋内で興行が行なわれるようになり、寛政年間(1789—1801)には、江戸に常設の寄席があったといわれている。「人を寄せる場所」という意の「寄せ席」「寄せ場」を語源とする寄席は、落語や講談、浪曲、義太夫、手品、音曲など、大衆芸能を興行する劇場の一種。落語と講談以外の演目は「色物」と呼ばれ、香盤表(かんばんひょう=番組の予定表)に赤い字で書かれるのが決まり。演目のトリを落語が務めるのも寄席の決まりだ。

話芸と話術とは似て非なるもの。話芸は芸事。日本の歴史の中で培われ、鍛えられ、磨かれた「話」の芸をいう。同じストーリーの「話」でも、演出と創意工夫を凝らして、「型」ができあがる。その型が落語、講談、浪曲などというわけだ。では、日本の話芸のそもそもルーツとは何かといえば、どうやらそれは仏教界で「情念の説教」と呼ばれ、言葉に節をつけ、美声とゼスチャーによって民衆に訴える「節説教」に行き着くらしい。平安末期から鎌倉時代にかけて芸能化が進み、落語や講談が芸として成立するまでは、まさに日本の話芸の主流。感動説教から、滑稽説教、哀愁説教など、説教者によりさまざまなタイプがあったという。



空 席の少ないようにとの願ひから、筆太で余白なく書かれた「寄席文字」。また、今日より明日、明後日と興行が尻上がりによくするようにやや右肩上がりになっている。

一番最初に上がる芸人を「さら」「さらくち」「開口一番」などといい、伸入りのすぐ後に出る芸人は、買ったばかりのお弁当やお菓子を食べている間に上がるため、「くいつき」と呼ぶ。また、最後のトリのすぐ前に出る芸人は「膝替り」で、真打の芸を引き立てよう、ひかえめながらも自らの芸を披露するという難しい役回りだ。

次の演者が上がる前に出て座がとんを裏返し、羽織や湯呑みがあれば片づけ、「めくり」(演者の名前を書いた紙の札)をかえすまでを「高座返し」という。前座の大事な仕事の一つだ。



右見て、八つあん。左見て、熊さん。
一人二役の至芸をとくとお愉しみあれ。

筋のある滑稽な話に身振りを加え、最後にオチをつける話芸が「落語」。高座に一人座り、扇子や手ぬぐいを使いながら、上半身と台詞だけでストーリーを展開していく。小説などとは異なり、登場人物の会話を中心のため、たとえば二人の人物の会話は、顔を左右に振ることで二人を区別させる、いわゆる「上下（かみしも）」をきる「技術など、高度な技、こまやかな表現が求められるのも特徴」。

「落語」というのは、オチのある話「落とし噺（おとしばなし）」から生まれた言葉で、表記上は江戸時代、18世紀の後半には見られるが、呼び名は「おとしばなし」で、「らくご」と呼ぶようになったのは明治の半ば。ただ、作品の中には、「落とし噺」ではなく、人の心を描いた「人情噺」や幽霊が登場する「怪談噺」、歌舞伎の演出や演技を取り入れた「芝居噺」などもある。いずれにしろ、落語は、今なお寄席演芸の主格だ。

噺家殺すにヤ刀物はいらぬ、あくび三つですぐに死ぬ

（落語「お七」より）

粋な江戸落語に、派手な上方落語。
それぞれに見る、市井の民の泣き笑い。

落語は、京都、大阪、江戸の三都で生まれ、上方を中心にした「軽口噺」、江戸を中心にした「落とし噺」、身振りなどを加えた「仕方噺」などの呼び方があった。

上方落語は、もともと屋外で通りすがりの人を相手にしていたため、小道具や鳴り物を使うなど、江戸（東京）落語よりも演出が派手め。落語の途中で使う三味線や太鼓、効果音、いわゆる「はめもの」も上方の特徴。一方、江戸落語は、座敷噺を始まりとする、少人数を相手にした落語のため、簡潔にさらっと話すのが粋とされていた。また、江戸落語の主人公が八つあん、熊さん（正式には八五郎、熊五郎）なら、上方はキー公、清やん（喜六、清八）。また、江戸が武士の町だったことから、江戸落語には武士が登場する作品が多いが、反対に上方は商家の旦那や丁稚が多く登場するなど、同じ落語でも少しずつ異なっている。



【めくり台】 演者の名前を書いた紙の札を掲げる台。



立川談志独演会

平成十九年十一月九日（金）

開場／十八時三〇分 開演／十九時〇〇分
グランシップ 十一階 会議ホール・風
全席指定 四、五〇〇円（当日五、〇〇〇円）

ついに、ついに「談志」来たる！

グランシップの『正月寄席』などを通して、落語に親しむ人が多くなった。そうした人たちも、あるいはそうでない人も、「ぜひ、この人の落語を」「この人の落語なら」と待ち望んでいたのが、誰あろう、「立川談志」ではないだろうか。若くしてその才能を発揮しながら、あえて敷かれた毛氈の上ではなく、独自の道を選んできた、「これぞ、談志！」なる一席。「完璧な落語よりも、オレの狂気ある落語！」と豪語するカリスマこそ、装いも新たにスタートする『グランシップ名人会』、その第一回にふさわしい、大物“だ”。

【たてかわだんし】

1952年、16歳で五代目柳家小さんに入門。前座名小よし、二ツ目で小あん。63年真打に昇進し、五代目立川談志を襲名。71年に参議院議員となり、79年まで決算理事、沖縄開発庁政務次官等を歴任。その間、落語協会に属し、理事を務めるが、83年同協会を脱会。落語立川流を創設して家元となる。

撮影協力／駿府寄席実行委員会



500年の歴史を持つ三ツボンの話芸。
いま語られる軍談、御家騒動、武勇伝…。

講談の「講」とは、歴史の意で、昔は「講釈」と呼ばれていた。その昔、軍記や物語のことを講義講釈と呼んだことに由来するもので、その起源は、戦国の世に遡り、御前で『源平盛衰記』『太平記』を講じたのが始まり。「講談」という呼称は明治以降だが、世界中の話芸の中でも、500年という長い歴史を誇るのにはそう多くないといわれている。

講談の作品は、大きく分けて4種類。『太平記』など、歴史上の戦いを描いた「軍談物」に、『忠臣蔵』のように将軍家や大名家の御家騒動を扱う「御記録物」、『宮本武蔵』をはじめ、武術の達人の伝記を基にした「武芸物」、そして、『水戸黄門』『遠山政談』など、江戸時代の政治や裁判をテーマとする「政談物」がある。ただし、一つの物語は、多くのエピソードで構成されているため、寄席では通常一つのエピソードを抜き出して語られることが多い。

講釈師扇で嘘を叩き出し

(講談「田宮坊太郎」より)

張扇を叩いて、時間と空間をワープ。
立て板に水の弁舌に圧倒されたい！

同じ寄席の話芸でも、講談の場合は、目の前に釈台という机が置かれ、張扇でこれを叩きながら、話にメリハリをつけて調子よく語り進めていく。落語が登場人物の会話で話を進めるのに対し、講談は説明が中心。また、講談の扇は、落語のように開くことはなく、重要なシーンの前にはボーンと打って客の耳目を集め、時間や空間をワープさせたりとなかなかの芸達者ぶり。ただし、「張扇三年」といわれるほど、叩き方には年季がいる。

グランシップでおなじみの宝井馬琴先生(落語では「師匠」だが、講談では「先生」が通例)によると、落語や浪曲とは違う、講談ならではの魅力とは、「一に俗談平和を説き、二に座興の笑いを結び、三に猛勇の智弁を揮う。つまり今日的な話をして、笑わせて、張扇(はりおうぎ)を叩きながら、立て板に水のごとく弁舌を揮う痛快感」。まさしくこれが講談の神髄だ。



【釈台(しゃくだい)】

演者の前の小さな机で、これを叩いて場面転換をする。



入場無料／要事前申込

宝井馬琴の家族で楽しむ 講談教室

平成十九年十二月二日(日)

開場／十三時三〇分 開演／十四時〇〇分
グランシップ 十一階 会議ホール・風

大好評のやわらかな講談指南が今年も講談初体験では、まずその迫力に驚く。やがて話に引き込まれて、最後には自分も史実の一場面に立ち会ったような感動を覚える。すると帰り道では、自分もあんな風に張扇を打ち鳴らして滑舌よく話せたら、と思う。そして、そんな願いを叶えてくれるのが、『宝井馬琴の家族で楽しむ講談教室』だ。小中学生とその家族を対象に、講談の歴史や発声方法、張扇の使い方などが学べる貴重な機会。帰り道では家族みんなが講談口調になったり…。それもまた話芸の面白さ、講談の楽しさ。ストレス解消も兼ねて、ぜひ。

【たからいばきん】

明治大学卒業と同時に五代目宝井馬琴に正式入門。1959年前座名琴調(きんちよう)で初高座。66年真打昇進、琴鶴(きんかく)となる。87年六代目宝井馬琴を襲名。91年芸術祭賞、98年文化庁芸術選奨文部大臣賞ほか受賞歴多数。99年紫綬褒章受章。現在、講談協会会長。35年静岡県静岡市(旧清水市)生まれ。

申込方法／往復ハガキに、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・参加人数(全員の氏名と年齢)を記入(返信ハガキにも代表者の郵便番号・住所・氏名を必ず明記)の上、下記まで郵送のこと。応募者多数の場合は抽選。宛先／〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 グランシップ「講談教室」係



節で3年、啖呵で5年の歌語り。
これぞ浪花節だよ、義理人情は。

落語は「話す」、講談は「読む」、浪曲は「語る」といわれ、すなわち素ばなしの落語、台本を読み聞かせる講談に対して、三味線の伴奏に乗せて語るのが「浪曲」だ。浪曲は、古くから伝わる浄瑠璃や説教節などを下敷きに大道芸として端を発し、明治時代初期、人気を博した大阪の芸人浪花伊助（なにわいすけ）の姓から「浪花節（なにわぶし）」と呼ばれるようになり、やがて「浪曲」という呼称が生まれた。

浪曲の大きな特徴は、何といっても三味線を伴奏に使いながら、「節（ふし）」と「啖呵（たんか）」を聞かせるところ。節とは、登場人物の心情や場面を歌詞にして歌う部分で、啖呵は、登場人物を演じて台詞を話す。浪曲を学ぶ際には、節よりも啖呵が難しいとされ、「節で三年、啖呵で五年」といわれる。

浪曲の代表的な作品といえば、『清水次郎長伝』『壺阪霊験記』など。また、浪曲では、舞台の中央に金屏風を置き、その前に布をかけた小さなテーブル。真後ろに背もたれの長い椅子。ほとんどの場合、立って演じるスタイルも、落語や講談とは違う特徴だ。



芸人は一文上がり

（講談「相馬大作」、落語「淀五郎」より）

漫才

manzai

そのルーツをひもとけば、平安の世。めでたきは、お正月の二人組。

落語、講談、浪曲は「物語を語る」芸だが、寄席芸には、ほかにもいわゆる「しゃべり」だけで観客を楽しませる話芸があり、その筆頭が「漫才」だろう。ボケ役、ツッコミ役の二人が演じる漫才については、今さら解説も必要のないほどポピュラーな演芸だが、そのルーツは平安時代に始まる芸能「万歳（まんざい）」にあることをご存知だろうか。万歳はもともと、二人一組で正月に家々をめぐり、新年を祝う言葉をしゃべった後、一人が太鼓を演奏し、もう一人がそれに合わせて舞うというおめでたい芸能で、この二人の掛け合いが面白い内容を含むことから、やがて寄席の中で一つの芸になったといわれている。

漫談

mandan

ときにはギターやウクレレとともにニュースをしゃべる。これも話芸。

漫談は、一人の芸人による話芸だが、その内容は物語ではなく、政治や経済をはじめ、身の回りの生活にいたるまで、世の中で起きているニュースを面白おかしくしゃべって伝える芸能である。しゃべりだけのものから、ギターやウクレレ、三味線などの演奏を取り入れてのしゃべり、あるいは似顔絵漫談など、そのスタイルはさまざま。

物真似

monomane

内容より、「声」から広がる世界。お座敷遊びの声色に始まる芸能。

古くは、歌舞伎俳優の声を真似た「声色（こわいろ）」という芸があり、江戸時代は、この声色が実に盛んだったという。最近では歌手、俳優から政治家、スポーツ選手まで対象が広がり、こうした物真似は形態模写、声帯模写などとも呼ばれる。また、江戸家猫八のように、動物の鳴き声を真似る「動物物真似」の芸を守る一門もある。



世界お茶まつり 2007

World O-CHA(Tea) Festival 2007, Shizuoka, Japan

11/1 (木) - 4 (日)

O-CHAは世界語

「お茶さえあれば幸せ」「お茶があるから楽しい」——暮らしの句読点ともいえる「お茶」の扉が、3年ぶりに世界に向けて開かれる秋。おいしさも、スタイルも、歴史も、文化も、自分流に味わい尽くす4日間。



ワールドO-CHA緑日

グランシップ 大ホール・海、芝生広場

世界のお茶や茶器、お茶菓子などを試飲、試食、そしてショッピング。仲間とワイワイ、緑日感覚で楽しもう。



新・緑茶空間

グランシップ 6階交流ホール

「真」「行」「草」で表現する新感覚お茶空間!伝統工芸品を用いた卓の演出から、煎茶から紅茶まで、各セミナーも開催。



“自分流”世界大茶会

グランシップ 3階ロビー ほか

「自分なりの一杯」を披露、提案。誰でも参加できる自由なスタイルのお茶会。

ワールドO-CHAメッセ

グランシップ 9階・10階会議室

お茶やお茶を使った商品、生産資機材、包装・計測機器などの総合見本市。初めてのビジネスメッセが実現。



O-CHAタイムトンネル

グランシップ 6階展示ギャラリー

唐の時代に始まる喫茶の歴史、その後のお茶文化の広がりを、「もてなすお茶」「楽しむお茶」の視点から楽しく体験。



世界緑茶コンテスト

グランシップ 大ホール・海

9月に行なわれたコンテストから、入賞茶の展示とオークション販売を開催。

世界緑茶会議

舞台芸術公園「椿円堂」

世界の緑茶生産国・地域、消費国の茶業団体が参加。生産や消費状況、国際規格・表示方法などをテーマにした国際会議。

第3回国際O-CHA学術会議

静岡県立大学、グランシップ 中ホール・大地

茶の生産、効能、歴史・文化、流通など、最新の研究成果を情報交換。グランシップ会場のみ一般入場可。(11/2~4)



2007年ユニバーサル技能五輪
国際大会

入場無料／要事前申込

第7回国際アビリンピック 芸術祭

11/18(日) 12:30開場 13:00開演
グランシップ 大ホール・海

障害のある方々の職業技能の祭典、アビリンピック。そのフィナーレを飾る芸術祭に、05年ショパン国際ピアノコンクールにて「批評家賞」を受賞した盲目のピアニスト、辻井伸行さんほか、すばらしい才能が集結。この感動をぜひあなたも。

芸術祭 演出／和太鼓演奏：静岡県太鼓連盟
箏曲演奏：日本盲人会連合音楽家協議会
ピアノ演奏：辻井伸行
石見神楽：(社)福いわみ福祉会
桑の木園芸能クラブ
ミュージカル：Arts for All, Inc. (アメリカ)

閉会式 アトラクション／オープニング：
静岡市立商業高等学校吹奏楽部

デモンストレーション・展示 アート展

日程／11月15日(木)～18日(日)
会場／グランシップ 6階展示室
出展団体／ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

入場無料／要事前申込

2007年ユニバーサル技能五輪国際大会
第7回国際アビリンピックを応援します!
～NHK静岡放送局テレビ放送開始50周年記念～

NHK ハート・コンサート “ものづくりの技と 音楽のコラボレーション”

11/15(木)

16:30開場 17:30開演
グランシップ 中ホール・大地

出演／清水紘子(ピアノ) + ピアザ(盲導犬)
ねむの木の子どもたちと宮城まり子
加藤登紀子

網膜剥離による視覚障害を持ちながらも、左目のわずかな光を頼りに、手と耳の感覚で各地で演奏活動続けるピアニスト清水紘子さんによる素敵なピアノを。また、地元静岡県の「ねむの木学園」の皆さんが、宮城まり子学園長と一緒に歌やダンスを披露。さらにおなじみの加藤登紀子さんの歌とともに、心ふれあう音楽のひとつときを。

コンサートお問い合わせ先

NHK静岡放送局 TEL054-274-1020
NHK厚生文化事業団 TEL03-3476-5955

お問い合わせ先

(財) 2007ユニバーサル技能五輪国際大会 日本組織委員会 アビリンピック技術部
TEL03-5400-1637 <http://www.skillsfestival2007.or.jp/jp/>
静岡県産業部就業支援局国際アビリンピック推進室
TEL054-221-3637 <http://www.pref.shizuoka.jp/syoukou/sho-2007/index.html>
静岡市経済局商工部商業労政課アビリンピック推進室
TEL054-286-1106 http://www.city.shizuoka.jp/deps/shogyorousei/syrou_abilympics.htm

野村喜和夫

干渉と、反発と。

「連詩では、自分だけの言葉の世界に閉じこもれない。他者の言語、他者の創造力に干渉されることは、苦しくもありますが、その反発力によって出てくるものは、一人で閉じこもってうっとりしている限りでは絶対に出てこない、ということが実感としてあります。」

言葉とは人間臭い記号。

暇つぶしに小説やエッセイは読めるが、詩は難しいといわれる。それと似て、同じ物書きでも、詩人と呼ばれる方に話を聞くのは少し別の覚悟が要る。なぜだろうと思っていたが、その謎がこの日、少し解けた。氏の話では、欧米の詩人たちは、普通の人が感じ得ないものを先取りして感じ、予言者的な役割を果たしてきたという。物や事象、あるいは言葉の向こう側まで透かし観る能力に晒されれば、誰だって畏怖と羞恥を抱いて当然なのだ。

——三十代で第一詩集を発表されていますが、詩はいつ頃から書かれていたのですか。

「学生の頃から書いていました。ただ、二十代の頃、とくに投稿もしなかったし、同人誌にも参加していませんでしたので、発表する場所がなかったんですね。それで第一詩集が随分遅くなってしまいました。」

——今日までにスランプなどは？

「もちろんありますよ。とくに若い頃はなかなか思うように書けなくて、長いブランクが何回もありましたね。それもまた第一詩集が遅れた原因でもあるんですけれども。最初に読んだ現代詩の詩人が吉増剛造さんで、吉増さんの詩を読んだ、気がついたら自分も書いていたというわけなんです。ですから、初期の頃はものすごく似ちゃうんですね。似ること自体は悪くないんですが、そこから脱却して自分のものが出せるまで、結局二、三年書きあぐねたことがあります。」

——昨年の『しずおか連詩の会』の際には、「こんなに言葉と濃密に格闘した三日間はない」とおっしゃっていましたが、ご自身にとって「言葉」とはどのようなものですか。

「どうでしょうね。ほかの芸術のジャンル、たとえば音楽の場合は、〈音〉を素材にして組み立てていくわけですから、素材が記号として純粹なんです。ところが我々が普段使っている〈言葉〉の場合は、混沌と濁った、実に人間臭い記号でしょう。だからこそ、そこに喜びや苦しみもあると思うんですけれど。あの連詩では、やっぱり自分だけの言葉の世界に閉じこもれ

ない、ということをととても感じましたね。詩人というのは、往々にして自分の言葉に陶酔してしまうところがあって、それが気分としては一番満たされる。けれども、同時にそれが独りよがりといえますか、案外たいしたことがない場合もあるわけです。そういうときに他者の言語、他者の創造力に干渉されるというのは大きい。それ自体は苦しいこともありますが、その反発力によって出てくるものは、一人で閉じこもってうつとりしている限りでは絶対に出てこない、ということが実感としてあります。」

——連詩は個性を振り払うことが求められたりしますが、実は一人ひとりの個性が浮き彫りになるような気がします。

「不思議なもので、とりあえずは個性が少し殺されるような、抑えられるような流れになりますけれど、いざ完成された連詩の全体を見渡してみると、本当に個性から個性へという結果になるんですね。大岡（信）さんのような大ベテランはわかりませんが、僕のような初心者はまさに手探りで、相手と自分との間にどういう作用、反作用が起きて、どのように連詩を形成していくのか、それが最初は全然見えません。ところが詩を巻いていくうちに、あまり知らない人のことがよくわかるようになって、こういう言葉の繋がりもあるんだ、こういうところで世界で広がったりするんだということが発見できていく。そして、そこが連詩の面白いところだと思います。」

スリリングな連詩。

——『しずおか連詩の会』では、五行、三行の詩が交互に繰り返されるスタイルをとっています。大岡さんは、行数を決めた理由の一つに、欧米の方々の詩の長さを挙げているように見えました。

「確かにそういう傾向はありますね。ヨ



今年6月には、「昨年の連詩体験が多少なりとも影響している」と語る詩集〈稲妻狩〉を発表。また、7月には、天才詩人ランボーのテキストをもとに詩人の心得を説いた現代詩入門の書〈ランボー『地獄の季節』詩人になりたいあなたへ〉を刊行。

ロッパ言語の人たちにとって、日本の詩の短さというのはある種衝撃でしょう。最近、俳句が世界中で試みられているというのは、そういう詩の短さに憧れるということもあるのではないのでしょうか。十のことを言うために十の言葉を使うというのが西洋文化です。ただ、西洋人にとっては同じ短い詩でも、連詩の中の五行詩と三行詩とで

はまったく違います。難しさでいうとどうでしょう。三行詩のほうが難しいでしょうか。あまり多くのことは言えませんが、際立った言葉ではなく、少し控えめな言葉で前から後に渡すというのは、意外に難しいかもしれません。」

——とくに連詩では即興性が求められます。そのために少し前の詩から流れを予測されて、ご自身なりに心づもりをされるようなこともあるのでしょうか。

「あります、あります。本当は家にこもって、時間をかけてブラッシュアップしたいのに途中で出さなきゃならない。だから、せめて自分の思っている方向に来てくれるといいなと思うことはあります。それで願った通りなら「しめた！」と思いますけれども、後で見直してみると、案外平凡だったりするんですね。そもそものが裏切られる場合の方が多い。その裏切りがどんな方向に転じていくか、そちらのほうがスリリングですけれども。」

——そんな連詩の体験などが、個人の創作にも影響したりするのでしょうか。

「それもありますね。実は去年、静岡で連詩をやった後、一冊詩集『稲妻狩』を作っているんですけども、言葉の出方が以前とは違ってきたなということは感じましたね。かなり自在に、あまりこだわることなく、言葉を生み出せるようになった。外から刺激を受けたとき、それまではその刺激を言語化するのにかかなり自分の中で悪戦苦闘していたんですけども、最近では外からの刺激に自然体で、言葉が、そ



【のむら きわお】

詩人。明治大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得(フランス近代詩専攻)。1987年に第一詩集『川葵え』発表。その後、現代詩の最先端を担うとともに、批評・翻訳・比較詩学研究などでも活躍。朗読パフォーマンスや異分野アーティストとのコラボレーションにも力を注ぎ、朗読CDもリリース。『現代詩フェスティバル95詩の外出』『現代詩フェスティバル97ダンス／ポエジー』などを主導のほか、2005年には「日欧現代詩フェスティバルin東京」の日本側ディレクターを務めた。主な詩集に『反復彷徨』、『特性のない陽のもとに』(『歷程新鋭賞』、『風の配分』(高見順賞)、『幸福な物質』、『ニューインスピレーション』(現代詩花椿賞)など。評論集に『ランボー・横断する詩学』、『討議・戦後詩』、『現代詩作マニュアル』、訳書に『ポール・ヴェルレーヌ』などがある。1951年埼玉県生まれ。

この秋、グランシップで開催の「しずおか連詩の会」では、さばき手の大岡信氏より人選を一任され、苦勞したという。「座の創作というものに抵抗を持たれる方もいました。その点、僕はあまり躊躇しないんです。むしろ未知な領域には何があるんだろうという気持ちで先立ってしまうんです。」

れも短い形で、まさに四行とか、五行とか、かたまりのようにポコッと自在に出せるようになっていました。それは連詩の経験が作用しているんじゃないかと思います。」

——谷川俊太郎さんが、音楽とのコラボレーションでは、音楽が言葉の意味を少し無化してくれるとおっしゃっていましたが、ダンスとのコラボレーションに取り組んでいらつしやる野村さんは、ダンスは詩にどのような影響を与えるとお考えですか。

「それは音楽に非常に似ています。先ほど言った通り、音楽は純粹な記号で、まあ、身体表現は音楽ほど純粹じゃなく、現実まみれてはいますけれども、我々の詩の言葉を多少無化してくれるところはありますね。身体芸術というのは不思議な芸術で、詩とも似ているんですよ。身体所作はある種記号的なところがあつて、詩のように表象したりすることもある。と同時にまったく違うのは、詩の言葉には実体がありませんけれども、身体というのは圧倒的な実体ですから。そうした大きな違いと大きな類似が同時にあるというのが魅力なんでしょうね。」

——西欧では詩人が美術評論を書いたりしますし、同じ物を書く人々の中で、詩人ほどほかの芸術と深く結びついている生業はないような気がします。近著の中の一文中にも「詩人は、単なる物書きではない」とありました。

「まったく違うかどうかはともかく、形式にこだわらない自由詩は、確かに日本独特の歌詠みも引き継いでいますが、全体

の半分か、三分の二ぐらいはもともとヨーロッパのもので、当然ヨーロッパの詩人観を引きずっているんですね。では、それがどういうものかというと、近代のヨーロッパの詩人たちは、たとえば常人には見えないものが見えたり、語り得ないものを語ったりという、そうした予言者的な能力によって、芸術全体のリーダー、とくに先端的な芸術のオピニオンリーダーを担ったわけです。ボールドレルにしても、アポリネールにしても、そうした能力によつて美術評論などを書き、まだ一般には理解されないようなアヴァンギャルドな芸術家を擁護していったわけですね。ただし、その代償として社会の周辺部分に生きるボヘミアンという、ある種の差別、社会的な排除はありましたけれども。」

——今年の『しずおか連詩の会』は、野村さんがキャスティングなさったとのこと、いわゆる「単なる物書きではない」詩人の方々による創作がますます楽しみです。

「詩人にもいろんなタイプがあり、とくに連詩については向き不向きもあるかと思いますが、そこはある程度無視して、本当に力のある詩人を揃えたつもりです。女性では、新井豊美さん、河津聖恵さんという、非常に知性に溢れた、なおかつ感性豊かな詩を書くお二人。一番風変わりなのは田口（犬男）さんでしょうか。現代詩の中では異彩を放っている詩人です。そういうわけでバランスとしては面白いと思いますね。一つの場合を持ったとき、連詩にどういう変化が起こるのか、僕自身も想定できないのですが、ぜひ楽しみにして臨みたいと思います。」



2007年 しずおか連詩の会

【参加詩人】大岡 信 野村 喜和夫 新井 豊美 河津 聖恵 田口 犬男

【創 作】11月22日(木)~24日(土) ホテルセンチュリー静岡(非公開)

【発表会】11月25日(日) グランシップ11階会議ホール・風

13:30開場 14:00開演 (入場無料／要事前申込)

■申込方法／往復ハガキに郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・参加人数を記入(返信ハガキにも代表者の郵便番号・住所・氏名を必ず明記)の上、下記まで郵送のこと。応募者多数の場合は抽選。

宛先／〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 グランシップ「2007年しずおか連詩の会」係 10/31必着

グランシップ サロンコンサート vol.2

イタリア民謡とオペラアリア

12/23 (日・祝) 1日2公演

9/30(日)
チケット
発売開始

1st stage / 13:00開場 13:30開演 2nd stage / 16:00開場 16:30開演

グランシップ6階 交流ホール

全席自由 4,000円(当日4,500円) 1ドリンク・ケーキ付

曲 目 「アヴェ・マリア」「帰れソレントへ」ほか



ソプラノ 渡邊 富美子
国立音楽大学声楽科卒。
アレス国際オペラコンクール
第1位。バストゥール研究所
チャリティコンサートにカー
ティア・リッチャレリと出演
するなど世界、日本および地
元静岡で活躍。



テノール 榛葉 昌寛
東京芸術大学声楽科卒。
イタリア・ミラノヴェルディー
音楽院へ留学。2000年に
日本人初のマリア・カラス賞
を受賞し話題に。ミラノを拠
点に世界各地のオペラ舞
台で活躍。

ピアノ 三浦 広彦
5歳で「蝶々夫人」の子
役で初舞台。以来、多く
のオペラ公演を経験。
88年より声楽の伴奏ピ
アニストとして活躍。歌
手との呼吸に高い評価を
得ている。

15世紀、ルネッサンス期のイタリア。新たな文化のうぶ声をその耳に聴いた知性ある淑女たち。やがて彼女たちは美しく着飾って集い、音楽に心躍らせ、芸術を語りあい、そして、お茶とお菓子を楽しむひとときを共有するようになる——。宮廷サロンとは、どれほど優美で、アカデミックで、モダンな社交場だったことだろうか。

「グランシップサロンコンサート」は、そんなエレガントな時間の、せてその一片でも……そんな思いから生まれたシリーズだ。第2回目は、ヘイタリア民謡とオペラアリアと題して、『アヴェマリア』をはじめ、心に沁みる名曲の数々を、世界的なソプラノとテノールで楽しもうという趣向。

音楽も、ゲストもちろん楽しみみだけれど、正直なところ、この日のためだけに用意されるお菓子、これが楽しみという方も多いはず。今回は、静岡市葵区のマリアサンクによる「チョコレーのトルタ」と「フルーツパウンドケーキ」に、ウバとアッサムのブレンドティのセット。低温でじっくり蒸し焼きにしたトルタは甘さ控えめ。パウンドケーキには貴族たちが愛したフルーツの砂糖漬けがたっぷり。香りづけのバルサミコ酢に大人のイタリアが薫る。

気忙しい一年の終わり。だからこそ、優雅なひとときを自分に贈る。確かな手ざわりはないけれど、五感にとどくプレゼントになるはずだ。

お茶と、お菓子と、音楽と。



下町のカメラ小僧が、
ライカ使いの名手と呼ばれるまで。

木村伊兵衛——日本写真界では、バイオニア的存在であり、土門拳と並んでリアリズムの最高峰と称される。半世紀前、二人が写真専門誌で対談した際、土門は木村にこう語っている。

「木村さんは詩人ですよ」と——その写真は「現実のいわば一種の生活詩みたいなもの」で、モチーフ全体を愛情が包んでいる。だから「一種の温かいほのぼのとしたものが出てくる」のだと。

確かに木村伊兵衛の作品を見ると、そこが東京の下町であろうが、東北の農村だろうが、あるいは異国のパリであろうが、レンズの先への純粹な興味や愛着が感じとれる。気に入った場面に出会ったら、カメラを向けずにはいられない。そして、そんな真正直な写真家の心が観る者の心を静かに揺さぶるのだ。

東京下谷の下町に生まれ、寄席や義太夫に通う早熟な少年だった木村伊兵衛は、小学校三年生のとき、零判型カメラ一式を三円五〇銭で手に入れる。自著によると、それは「シャッターも絞りもないおもちゃ」だったそうだが、あまりに「よく写ったのでびっくりした」という。

以来、小遣いを貯めてはカメラを買い求めるほど夢中にはなったものの、写真家への志は露ほどもなく、花柳界を覗き見たさに箱屋（芸者の三味線持ち）に憧れる少年時代だった。

成人してアマチュア写真クラブに入ると、やがて頭角をあらわすようになる。昭和四年にドイツの飛行船ツェペリン号がやってきて、乗員のエッケナー博士が首から下げていたライカに魅せられ、まもなく買い求めたという話は、後に「ライカ使いの名手」と称さ

木村伊兵衛の昭和

「単なる写実ではなく、対象をどのように感じ、どのように強く受け入れるかということだ。そこに何か本当に作者が戦っている姿がなければならぬ。」

木村伊兵衛

れる木村伊兵衛を語る際には欠かせない一説だ。

最初のライカを手にしてからというものの、またたく間に仕事運が開けたとは自らの弁で、翌年、花王石鹼広告部に嘱託として入社。リアルな広告写真が話題となる。この頃が「生涯でもっとも脂がのつていた時代」と自身は語っているが、むしろ以降の活動のほうをよく知る人々が多いのではないだろうか。

戦前から戦中期にわたる広告写真や報道写真、さらに戦後の秋田やヨーロッパで撮影された一連の作品、また、東京の下町のスナップやポートレートなど、多彩な分野において独自の感覚を発揮。まさに新鮮なリアリズム表現によって、日本写真界を拓いた第一人者といえるだろう。

ただし、そんな巨匠の冠をかわすかのように、そのフットワークは実に軽やか。ライカを手にはベレー帽をかぶった風貌も、「Ihei Kim」 という署名も、彼の口ぐせ同様、「粋なもん」である。

昭和の匂いがある。音が聴こえる。 この秋、グランシップに100点。

〈何必館・京都現代美術館〉の協力のもと、グランシップで毎秋開催の「世界写真家シリーズ」に今回初めて日本人が登場する。

これまでの三人（アンリ・カルティエ・ブレッソン、ロベール・ド・アノー、ウィリー・ロース）はいずれも同じ時代を生きたパリの写真家であり、お互いを知る間柄にあったが、今回の木村伊兵衛も実は彼らとまったく無縁というわけではない。

昭和二十六年、木村は、「決定的瞬間」というブレッソンの一連の写真に出会い、「ぞつとして、すっかりまいて」しまう。そして、写真が芸術として社会的な地位を得るためには、「この道より他にない」と奮起するのである。その後、木村はパリのブレッソンを

人物

「決定的瞬間」の把握を「顔」という素材で行なう。それが彼の肖像写真。人物を写すなら、その人の性格の出たものを撮りたい、というのが彼のテーマだった。



那覇の芸者 昭和10年 何必館・京都現代美術館所蔵



大曲市内小友 昭和33年 何必館・京都現代美術館所蔵

当初は、風俗的なものではなく、戦後の農村の動揺した姿を撮るつもりで出掛けたものの、美人の多さにひかれてついつい通ってしまったという本人の弁はさておき、農村の実情には、「現実の縮図」として表現しやすい部分がたくさんあったという。

秋田



川開き 昭和28年 何必館・京都現代美術館所蔵

武人がよい刀を、大工が切れる道具を求めるように、どんな達人にも指先ばかりでは写真は写せない。木村は「カメラの第一にライカをおく」と言った。そして、同時に彼はこう語る。「カメラは機械である」と。

ライカ

社会に生きる人々を写す際には、風俗の面白さや顔かたちなど、表面的なものを写すべきではない。撮影者の生活体験からくる観察とシャッターチャンスこそが、観る人の心に深く訴えることができるのだという。

スナップ



本郷森川町 昭和28年 何必館・京都現代美術館所蔵

訪ね、さらにドアノーマとも交遊を重ねている。縁は線としてつながっているのだ。

図録に添えられた何必館・京都現代美術館館長の梶川芳友氏の言葉によると、木村伊兵衛は「他者の気持ちと体温が触れあう距離感を保ちながら、野暮な一線はさらりとかわす」人だったらしい。一方、その写真には「切り取られた風景には、移ろいゆく香りだけでなく、豊かな自然の匂いがただよい、大昔から続いてきた生活の音がある」という。

今回の『木村伊兵衛展』では、何必館・京都現代美術館所蔵の昭和十年以降の代表作「秋田」シリーズ約30点をはじめ、「戦前」「戦後」「庶民の町」「日本列島」「人物」などをシリーズで公開。オリジナルプリント約一〇〇点が展示される。

戦前から戦中、戦後の日本は、そのまま「昭和」の日本だ。彼が切り取った風景が放つ、昭和の匂いと音は、きつと平成を生きる人々の胸に新鮮な波紋を投げるに違いない。

「木村伊兵衛の視線」という財産

多々良 栄里

(グランシップペンクラブ会員・フォトグラファ)

木村伊兵衛は日本近代写真史においてもっとも重要な人物である。戦前戦後を通じて活躍した写真家で、報道や宣伝写真、ストリートスナップやポートレートなど、多くのジャンルについて傑作を残している。ライカ(ドイツ製レンジファインダーカメラ)をこよなく愛したことで有名で、ことさらテーマを強調し

木村伊兵衛の写真は、どの分



GRANSHIP Pen Club

野においても見る人に緊張感を与えず、素直に一枚一枚を楽しませてくれる素晴らしさがある。私は彼の口癖だったという「粋ですねえ」が聞こえてきそうな、颯爽としたスナップショットが好きである。戦前の那覇、戦後の有楽町、渋谷、本郷森川町、「川開き」と題名のついた花火の写真、そして、50歳を過ぎてから

撮影を始めたという「秋田」シリーズ。しっかりと対象を見据えつつ、必要に迫られて撮ったのではなく自分の興味や身体反応に従ってシャッターを押す誠実なスタイルが、完成度の高い映像を生み出したのだらう。彼の写真を見るたびに、心に嘘のない真の写真であることを感じる。だからこそ、木村伊兵衛の残

した作品から「写真を撮る」とその本質を教えられる。対象と向き合った撮影者は、どこまでその対象を理解し受け入れられるかが大切である。そして互いの本性を瞬時に交換しながら写真が生み出されていくのだ。彼の写真には、対象と撮影者、そしてそれを見る人の有り様が



東京裁判 昭和23年 何必館・京都現代美術館所蔵

木村伊兵衛 年譜

- 1901 東京下谷金杉上町に生まれる。
- 1924 日暮里に写真館を開業。
- 1930 花王石鹼広告部に嘱託として入社。
- 1932 野島康三、中山岩太と月刊雑誌「光画」を発刊。
- 1933 名取洋之助、原弘、伊奈信男らと日本工房を設立。
- 1935 沖縄県琉球本島に1ヶ月滞在し、写真撮影を行う。
- 1936 満鉄の招待で中山岩太と満州を旅行し、撮影を行う。
- 1937 外務省の依頼で中国に派遣され、上海、南京を撮影。
- 1950 日本写真家協会が設立され、初代会長に就任。
- 1952 農村生活の撮影のため、秋田を訪れる。
- 1953 旧正月の秋田に約1ヵ月滞在、冬の東北農村を撮影。
- 1954 第1回外遊で約4ヵ月、ヨーロッパ諸国を撮影。
- 1974 5月31日死去、享年72歳。

何必館・京都現代美術館所蔵 世界写真家シリーズⅣ

木村伊兵衛展

～「昭和」を撮る～

10/6(sat)～21(sun)

10:00～18:00 (入場は17:30まで)

グランシップ6階 展示ギャラリー

一般 800円(当日1,000円) 学生 500円(当日700円)

※小学生以下と70才以上の方、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方無料

Report ①

音楽家と子どもたちのための「音楽体験プログラム」



真夏の気温を超えた、音楽の楽しさ！
イギリスからやってきた静岡初の音楽体験。



音楽やスポーツを通じて、日英の若者交流を深め、国際人育成活動をすすめるクマ原田氏がファシリテーター（推進役）を務める。



講師は、パフォーマーとして、エデュケーション・マネージャーとして、創造的な芸術活動を展開するマイク・スペンサー氏。

これまで日英の多くのアーティストをプロデュースしているクマ原田氏。グランシップで開かれた、この「音楽体験プログラム」は、7年前、東京で初めて行なわれ、以降、毎年地域を広げて今年で8回目。静岡での開催は、今回が初めてである。

スペンサー氏が問いかける。「もう一回やる？」。すかさず子どもたちが答える。「やるーっ！」。音楽の楽しさは、コミュニケーション力になる。創造力を養う。とびきり刺激的な音楽との出会いがそこにあった。

気温35℃を超える真夏日。グランシップの地下にあるリハ・サル室をのぞく。するとそこには大きな輪をつくり、歌い、そのリズムに楽しそうに身体を動かす子どもと大人の姿があった。

子どもは県内の小学生、大人はオーケストラの楽団員や学校で音楽を教える先生たち。そして、その輪の真中で手拍子を取り指導するのは、ヴァイオリン奏者としてロンドン交響楽団に14年間在籍、教育プログラムにおいても中心的な役割を果たし、英国ロイヤル・オペラでエデュケーション・マネージャーとして独自のプログラムを構築・実践するマイク・スペンサー氏だ。また、参加者たちの心の動きや状況を見ながら、実際にプログラムを進行するファシリテーターを務めるのは、ロンドン在住のミュージシャンで、

■音楽家のための音楽体験プログラム ～音楽の創造性を体験する～ 8/16・17

ワークショップを通して、子どもたちへの音楽教育について学ぶ体験プログラム。音楽家としての活動の幅を広げる一助にも。一日目は、多様なゲームを通してコミュニケーション力・創造力を養い、二日目には、県内小学生とともに参加し、コミュニケーションを図っていく。

【参加】県内音楽家
(オーケストラ楽団員・音楽の先生等)

■音楽体験プログラム 「音となかよし」 8/17

音楽の楽しさを体験し、マイク・スペンサー氏をはじめ、県内音楽家たちの指導のもと、子どもたちのコミュニケーション力・創造力を養う「体験型」プログラム。

【参加】県内小学4年生～6年生



「子どもたちが考え、アイデアを生み出しそして実践していくプロセスこそが大切。大人はそれを辛抱強く見守ることが大事。」というマイク氏のメッセージそのままのシーンが展開された。

Report ③

第28回 静岡県学生音楽コンクール 学生演奏家54名による 本選会。

8/18、中ホール・大地で行なわれた同コンクールの本選会、今年で回を数えること28回。予選を勝ち抜いた小学生から高校生まで54名が出場し、日頃の成果を熱演した。入賞者は以下の通り。



- | | |
|--|---|
| <p>●入賞者(敬称略)</p> <p>●静岡県新聞社・静岡放送賞</p> <p>●静岡室内楽協会賞</p> <p>●県演奏家協会賞</p> <p>●県オペラ協会賞</p> <p>●グランシップ館長賞</p> <p>●ピアノ部門</p> <p>●小学生低学年の部</p> <p>第1位 鈴木紗耶香(小3)</p> <p>第2位 山本 遥菜(小2)</p> <p>第3位 森田 真由(小3)</p> <p>●小学生高学年の部</p> <p>第1位 小針 侑也(小6)</p> <p>第2位 本多美穂(小6)</p> <p>第3位 小久保美涼(小4)</p> <p>●中学生の部</p> <p>第1位 大畑 尚子(中1)</p> <p>第2位 野嶋明日美(中2)</p> <p>第3位 岡 里美(中1)</p> <p>●高校生の部</p> <p>第1位 福原 圭織(高1)</p> <p>第2位 後藤 碧生(高2)</p> <p>第3位 久土佳菜江(高2)</p> <p>●弦楽部門</p> <p>●小学生の部</p> <p>第1位 佐藤 雅浩(小6)</p> <p>第2位 福興 茉莉(小5)</p> <p>第3位 村松 京(小5)</p> <p>●中・高生の部</p> <p>第1位 長澤 駿太(中1)</p> <p>第2位 笹原 滯(高3)</p> <p>第3位 半田あゆ(高2)</p> <p>●管楽部門</p> <p>●中学生の部</p> <p>第1位 池田 明穂(中3)</p> <p>第2位 伊藤 樹里(中3)</p> <p>第3位 鈴木 佑季(中2)</p> <p>●高校生の部</p> <p>第1位 齋藤 志野(高1)</p> <p>第2位 鈴木悠紀子(高2)</p> <p>第3位 山田美貴子(高3)</p> <p>●声楽部門</p> <p>●高校生の部</p> <p>第1位 山本 航輔(高2)</p> <p>第2位 石川奈津子(高3)</p> <p>第3位 永井 陽菜(高3)</p> | <p>●入賞者(敬称略)</p> <p>●審査委員長特別賞</p> <p>ジュニアの部</p> <p>ジュニアの部A 青木 美帆</p> <p>●ジュニアの部A</p> <p>第1位 福田 侑香</p> <p>第2位 黒瀬 華</p> <p>第3位 鈴木重理奈</p> <p>第4位 八萬 円香</p> <p>●シニアの部</p> <p>●ジュニアの部B</p> <p>第1位 飯塚 絵莉</p> <p>第2位 永瀬愛莉菜</p> <p>第3位 秋山千加子</p> <p>第4位 篠原 奈月</p> <p>第5位 高田 直美</p> <p>第6位 吉田合々香</p> <p>静岡県新聞社・静岡放送賞</p> <p>飯塚 絵莉</p> <p>●シニアの部</p> <p>第1位 小柴富久修</p> <p>第2位 嘉山 裕子</p> <p>第3位 鈴木里依香</p> <p>第4位 吉松 朱里</p> <p>第5位 大瀧紗矢香</p> <p>第6位 中村 沙希</p> <p>静岡県新聞社・静岡放送賞</p> <p>丸地 利沙</p> |
|--|---|

Report ②

第1回グランシップクラシックバレエコンクール in しずおか 県内初のバレエコンクール開催。

静岡県内初のバレエコンクール(高3)の3部門から計120名が参加。アナトリイ・シードロフ審査委員長は、「レベルが高く、充実したコンクール」と評価。第1回の入賞者が決定した。



- | | |
|---|--|
| <p>●入賞者(敬称略)</p> <p>●グランシップ館長賞</p> <p>●シニアの部</p> <p>●ジュニアの部A</p> <p>第1位 福田 侑香</p> <p>第2位 黒瀬 華</p> <p>第3位 鈴木重理奈</p> <p>第4位 八萬 円香</p> <p>●シニアの部</p> <p>●ジュニアの部B</p> <p>第1位 飯塚 絵莉</p> <p>第2位 永瀬愛莉菜</p> <p>第3位 秋山千加子</p> <p>第4位 篠原 奈月</p> <p>第5位 高田 直美</p> <p>第6位 吉田合々香</p> <p>静岡県新聞社・静岡放送賞</p> <p>飯塚 絵莉</p> <p>●シニアの部</p> <p>第1位 小柴富久修</p> <p>第2位 嘉山 裕子</p> <p>第3位 鈴木里依香</p> <p>第4位 吉松 朱里</p> <p>第5位 大瀧紗矢香</p> <p>第6位 中村 沙希</p> <p>静岡県新聞社・静岡放送賞</p> <p>丸地 利沙</p> | <p>第5位 立元 花奈</p> <p>第6位 鳥澤 美海</p> <p>静岡県新聞社・静岡放送賞</p> <p>田中 真央</p> |
|---|--|

清水みなと育ちの私は、岡小学校を卒業すると、静岡鉄道で静岡の城内中学校へ通うようになった。当時、城内中学の一年生は八百余人で、十八クラスに分かれていた。一年十組だった私は、本多幸吉君と親しくなった。なぜ親しくなったかは判然としていないが、お互いに「爺むさい」ことの好きな少年同士だったのではなからうか。

本多君と私は、日曜日に駿府城の石垣に刻まれた紋所の拓本をとった。駿府城の石垣には、各大名が寄贈した証拠にと、家紋を刻んだ石がところどころにあったのだ。また、学校帰りに青葉通りにあった露店の古道具屋をのぞき、刀の鐔や目貫や筭（しりぞが）などの附属品を、安くしてもらって買ったりもした。「あんたつっちゃあ、ええ趣味してるだねえ」、露店のおじさんにそう言われて、得意げに本多君と顔を見合わせたものだった。

本多君の家は駒形町の魚幸という酒屋だった。その店の主人であるお父さんは、仕事のあと、警察の道場で柔道の師範をつとめる頑健なタイプで、二年のときには本多君とふたりで警察の道場へ習いに通った。お母さんは、眼鏡をかけた気さくで明るい人だったが、歌舞伎や古典芸能が好きで歌舞伎

見物にもよく出かけたようだった。本多君の勉強部屋には、「演劇界」や歌舞伎のパンフレットが積みかさねてあり、お母さんの影響で本多君は「爺むさい」ことが好きになったのかもしれない。

お母さんの影響を受けた本多君の影響で、私も静岡の公会堂へ歌舞伎がやって来ると、当然のよう

に本多君と観に行ったものだった。私の和風好きには、育った環境のせいもあるが、本多君のお母さんの影響もあつたという気がする。

そのお母さんとは、何年か前に久しぶりにお目にかかり、八十八歳と聞いて目を瞠（おどろ）った。目の前にいる、色白で艶つやとして明るく上品なお母さんは、中学生の頃の印象と何も変わっていないのだ。近ごろはすっかり無沙汰していたが、本多君の一番上の兄である本多平八さんから、最近の消息についてのお手紙をいただいた。

その中に、「一〇〇歳と一〇二歳の女性 回復願ひ折り鶴」というタイトルの読売新聞七月十四日号の記事が入っていた。大阪市住吉区で男に殴られ、

本多君のお母さん

意識不明となつて二歳児の回復を祈り、静岡市在住の二人の女性が、折鶴十羽を誕生祝いとしてプレゼントしたという。そして、百歳の赤塚たねさんとともに折鶴を贈った百一歳の女性が本多君のお母さんの本多あやさんだった。幼い子供に対する虐待事件に胸を痛め、何とか意識を取りもどしてほしいと希（ねが）つてのことだった。

私は、この記事を読んで胸が熱くなるとともに、本多君のお母さんらしいな、と駿河人として誇らしい気分になった。私とちがつて、今は「爺むさい」どころか練達の英語を駆使して、海外と日本を往復する仕事にいきしんでいる本多君にも、この記事はとどいてることだろう。



画／風鈴丸

【むらまつともみ】作家。東京生まれ。小学校～高校時代を清水（現静岡市）で過ごす。慶応義塾大学文学部卒業後、出版社勤務を経て文筆活動に入る。小説、エッセイ等、著書多数。『時代屋の女房』で直木賞、「鎌倉のおばさん」で泉鏡花賞受賞。





公演情報

2007/10-2008/2

※9月上旬の情報です。出演者、天候等の都合により、公演の内容が変更されることがあります。



残席わずか!

11/9

グランシップ名人会 vol.1 立川談志独演会

「落語は人間の業の肯定」と20代にして定義していたという天才落語家。その垂涎の高座で幕をあける「グランシップ名人会」。かつての「天才」はいまや「名人」に。その珠玉の話芸をお聞き逃しなく。

- 18:30開場
19:00開演
- 会議ホール・風
- 全席指定
前売 4,500円

→P7参照



入場無料/要事前申込

11/25

2007年 しずおか連詩の会

今年で8回目を迎える恒例「しずおか連詩の会」。今回個性豊かな詩人5人が40編の詩を創作。連詩の発表とともに、作者本人による解説もお楽しみに。

→P11参照

【参加】大岡信 野村喜和夫 ほか

■13:30開場 14:00開演

■会議ホール・風

■入場無料/要事前申込

(申込方法はP25参照/10/31(水)必着)



入場無料

12/1-16

静岡の魅力

第4回 フォトコンテスト入賞作品展

県内外約1,547点の中から、入賞者が決定。決定した入賞作品の展示を行う。

- 10:00~17:00
- 展示ギャラリー
- 入場無料



詳細後日発表

12/15

山本晋也トークショー(仮)

第4回フォトコンテストを記念し、審査員である山本晋也、沼田早苗、織作峰子を迎えてのトークショーを開催。



チケット発売中

10/6

G S

[1回券のみ] P Pコード377-995 L Lコード42009

人形浄瑠璃「文楽」

世界無形遺産宣言を受けた人形浄瑠璃をぜひ、この機会に。よくわかる解説つき。

【演目】昼の部/「近頃河原の達引」四条河原の段・堀川猿廻しの段 「義経千本桜」道行初音旅夜の部/「伊達娘恋緋鹿子」火の見櫓の段「生写朝顔話」明石船別れの段・宿屋の段・大井川の段

■昼の部/13:00開場 13:30開演

夜の部/17:30開場 18:00開演

■中ホール・大地

■全席指定

一般 3,500円

学生 2,500円

一般通し券 6,300円

学生通し券 4,500円



チケット発売中

10/6-21

G P Pコード687-446 L Lコード42128 S T KY

何必館・京都現代美術館所蔵・世界写真家シリーズIV 木村伊兵衛展~昭和を撮る~

何必館・京都現代美術館が所蔵しているオリジナルプリント約100点を展示。代表作の「秋田」シリーズほか、「戦前」「戦後」「庶民の町」「日本列島」「人物」などのシリーズも公開。

■10:00~18:00

(最終入場17:30)

■展示ギャラリー

■前売 一般 800円(当日 1,000円)

学生 500円(当日 700円)

→P16参照



木村伊兵衛 大曲 おぼこ 昭和28年 何必館・京都現代美術館所蔵



完売御礼

10/20

イッセー尾形の とまらない生活2007 in静岡

社会のありふれた人々を絶妙に演じ、日常を浮き彫りにするイッセー尾形の一人芝居が、待望の初登場。

■18:00開場

18:30開演

■中ホール・大地

■全席指定

4,000円



GRANSHIP JAZZ LIVE

スイング ジャズ クラブ ~ビッグバンドに参加しよう~



【ホストバンド】ブルーススカイオーケストラ

■15:30開場 16:00開演

■中ホール・大地

■全席指定 4,500円

学生券(大学生以下) 2,500円



チケット発売中

10/7

G P Pコード255-116 L Lコード48408 S CN

vol.2 デューク・エリントン

生涯に残した楽曲は2,000曲を超えるといわれるデューク。「A列車で行こう」「キャラヴァン」「サテン・ドール」など、永遠の名曲とともにスイングなひとときを。

【ゲスト】前田憲男(ピアノ)



前田憲男



11/18(日)チケット発売

2008.2/24

G P Pコード255-117 L Lコード48409 S CN

vol.3 ベニー・グッドマン

スイングの王様といわれたベニー。「レッツ・ダンス」「メモリーズ・オブ・ユー」「シング・シング・シング」など、都会的で躍動感のあるサウンドをたっぷり。

【ゲスト】セシル・モンロー(ドラム)



セシル・モンロー



応募期間/10月6日(土)~12月23日(日)祝

2008.2/23

グランシップ ジャズ クリニック

各回ゲストプレイヤーも講師として参加。プロのテクを盗んで、翌日の本番にはいっしょにスイング!

■対象 楽器演奏経験のある中学生以上

■参加料 各回 一般 5,000円

学生 3,000円

■募集パート/tp, tb, sax, dr, b, pf ほか

■お申し込み・お問い合わせ

(財)静岡県文化財団企画制作課

TEL054-203-5714



託児をご希望の方は、公演1週間前までに(財)静岡県文化財団企画制作課までご連絡ください。 054-203-5714

※お預かりできるのは、2歳以上の未就学のお子様に限ります。



10/28(日)チケット発売

2008.1/27^②

G Pコード380-144 Lコード43271 S

グランシップ静岡能

新春吉例の能楽をおとどける「グランシップ静岡能」。宝生流による能2番、仕舞のほか、狂言を上演。

■13:00開場 13:30開演

■中ホール・大地

■全席指定 S席 5,000円 A席 4,000円
学生券 2,000円

【出演】佐野登、前田晴啓、宝生和英、高橋章、山本東次郎 ほか

【演目】能「雲林院」「鉄輪」
仕舞「嵐山」「西行桜」
狂言「磁石」



雲林院



鉄輪

「2007年 しずおか連詩の会」 「宝井馬琴の親子で楽しむ講談教室」 「ニューイヤーコンサート」 の申し込み方法

往復ハガキに、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・参加人数（ニューイヤーコンサートは小学生以上2名まで、講談教室は参加者全員の氏名と年齢）を記入（返信ハガキにも代表者の郵便番号・住所・氏名を必ず明記）の上、下記まで郵送のこと。応募者多数の場合は抽選。

宛先／〒422-8005

静岡市駿河区池田79-4 グランシップ
「2007年しずおか連詩の会」または
「宝井馬琴の親子で楽しむ講談教室」
または「ニューイヤーコンサート」係

※ニューイヤーコンサートは希望公演の別（昼・夜）を明記のこと。



入場無料／要事前申込

12/2^②

宝井馬琴の 親子でたのしむ講談教室

毎年恒例の講談教室。話し方から、張り扇の使い方まで、講談の極意がわかれば、楽しさも2倍!3倍!

■13:30開場 14:00開演

■会議ホール・風

■入場無料／要事前申込

（申込方法は左下欄参照／11/9（金）必着）



9/30(日)チケット発売

12/23^{②+祝}

G Pコード253-490

グランシップサロンコンサート2007 vol.2 イタリア民謡とオペラアリア

■①13:00開場 13:30開演

→P15参照

②16:00開場 16:30開演

■交流ホール

■全席自由 サロンコンサート特製ブレンド紅茶・ケーキ付 4,000円（当日4,500円）



要事前申込

2008.1/11^③

グランシップ&静岡ガス ニューイヤーコンサート



ニューイヤーを飾る恒例のクラシックコンサート。ご好評につき、今年度から昼、夜2公演に。

【指揮】堤 俊作

【演奏】静岡交響楽団

【ゲスト】マシモ・アクリ ほか

【曲目】ワーグナー／双頭の鷲の旗の下に
スーザ／美中の美、ワシントンポスト
タイケ／旧友 ほか

■昼公演 13:30開場 14:00開演

夜公演 18:30開場 19:00開演

■中ホール・大地

■全席指定／要事前申込 1,000円

（申込方法は下欄参照／11/30（金）必着）



9/23(日)チケット発売

12/16^③

G Pコード253-495

グランシップ&静響 クラシックコンサートシリーズ

名曲の舞台

「音楽の宝庫・東欧編」Vol.3

祝祭的な曲調から式典などで演奏される「ニルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲や、スメタナによるボヘミアの郷土色豊かな連篇交響詩「わが祖国」より「モルダウ」など、聴きごたえのあるプログラムで。

【監修】堤 俊作（静岡交響楽団音楽監督）

【演奏】静岡交響楽団

【指揮】石本由香利

【ゲスト】合唱／静岡児童合唱団
青葉会スベリオル

【曲目】ワーグナー／楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」より前奏曲（静響&ヤングオーケストラ塾合同演奏）
スメタナ／交響詩「わが祖国」よりモルダウ
フリストフ／ブルガリアの古い聖歌より
チャイコフスキー／組曲「くるみ割り人形」より 他

■13:30開場 14:00開演

■中ホール・大地

■全席指定／S席 3,500円（当日 4,000円）
A席 2,500円（当日 3,000円）
学生券（大学生以下）1,000円



参加者募集中

グランシップ&静響 ヤングオーケストラ塾



次世代を担う学生たちがプロのオーケストラとの演奏体験。「名曲の舞台」vol.3にて練習の成果を発表します。

■対象／大学生以下

■参加料／各回 7,000円

（公演チケット1枚含む）

■申込・問合せ／NPO法人静岡交響楽協会
TEL.054-203-6578 FAX.203-6579

■練習日／10/28（日）、11/23（金・祝）、
12/2（日）、12/9（日）、12/15（土）

■曲 目／ワーグナー／楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」より前奏曲

JUST FINISHED!



サクソプレイヤー MALTAさん 8.Jul.2007

中ホール・大地での「グランシップ ジャズライブ vol.1」に登場。

読者 Presents

写真展図録、サイン本、ペアチケットをプレゼント。



10/6～21開催の「木村伊兵衛展」(P16～参照)より展覧会図録①を、また、11/25開催の「しずおか連詩の会」参加の詩人、野村喜和夫(P11～参照)著「ランボー『地獄の季節』詩人になりたいあなたへ」と詩集「稲妻狩」をサイン入り2冊セット②で1名様に、来年2/24開催の「ジャズライブ」(P24参照)のペアチケット③を1組2名様にプレゼント。ハガキに住所、氏名、電話およびプレゼント名を明記の上、下記あて郵送を。(平成19年11月末日消印有効)なお、当選者は商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップG係 TEL054-203-5714

MEMBERS

「グランシップ友の会」会員募集

グランシップが開催する公演・イベントをよりおトクに楽しんでもいただくためのメンバーズクラブ「グランシップ友の会」。ぜひ、あなたもご入会を。

■会員タイプ・年会費(初年度会費は入会月により異なります。)

- ◆レギュラー会員 年会費 2,000円
- ◆法人特別会員 年会費 200,000円
- ◆法人一般会員 年会費 100,000円

■特典

- ◆チケット割引10%割引◆チケット先行予約◆電話での予約受付◆公演情報誌送付◆提携店割引◆法人会員特典(情報誌上に社名掲載)
- (チケット代金のカード払いを希望の場合、NICOS・VISA・Master他提携カードの利用可)

■お申し込み・お問い合わせ

グランシップ友の会事務局
〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップ3階
TEL.054 (203) 5714 FAX.054 (203) 5716

〈友の会法人会員〉

- 法人特別会員/静岡ガス(株)、鈴木(株)、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)
- 法人一般会員/(株)タミヤ、コクヨ西関東販売(株)、(株)NTTDコモ東海、劇団ひまわり

財団法人 静岡県舞台芸術センター 〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 TEL.054-203-5730 <http://www.spac.or.jp>

SPAC NEWS

芸術総監督 宮城 聡
SPAC
Shizuoka Performing Arts Center
財団法人 静岡県舞台芸術センター

SPAC秋のシーズン 特集 日本の現代戯曲、その言葉を辿る 11月9日～12月2日 静岡芸術劇場、舞台芸術公園

鈴屋法水 演出 平田オリザ 作『転校生』
松田正隆 作・演出『王女A』
林家正雀 口演 三遊亭圓朝 作『芝居噺 真景累ヶ淵』
宮城 聡 演出 音楽+ダンス+朗読『コヨーテ・ソング』
親子で楽しむ人形芝居 糸あやつり人形劇団 みのむし

文豪谷崎が大正期に発表した傑作戯曲「お国と五平」とその半年前に発表された「或る調書の」一節を劇的に構成し、そこに鈴木忠志が「日本人原論」を見いだしてゆく名舞台。

『別冊 谷崎潤一郎』

11月17日(土)18日(日)
舞台芸術公園 椿円堂
鈴木忠志 演出

戦後日本を代表する劇作家木下順二の最後の戯曲『巨匠』。
SPACの誇る名優・高森皓祐主演による、
宮城聡のSPAC初演出作品。

『巨匠』

11月9日(金)10日(土)11日(日)
静岡芸術劇場
宮城 聡 演出 木下順二 作

TOPIC-1

プロに学び、プロと演奏。
感激!ジャズ・クリニック

7/8、「グランシップジャズライブvol.1〜ビッグバンドに参加しよう〜」が開催。今年は初の試みとして、ホストバンド“ブルースカイオーケストラ”メンバーによるジャズ・クリニックが行なわれ、前日にはジャズや演奏の基本をレッスン。当日はリハーサル後、ビッグバンドの一員としてステージに立ち、集まった観客からプロとともに熱い拍手を浴びた。

TOPIC-2

今年も「スゴイダンス」続々!
おとみち2007開催。

年々参加者、来場者が増加している「おとみち」が、今年も8/18・19の2日間、大ホール・海で開催された。「ダンスショーケース」では、オーディション通過の19組が熱演。また、白熱の「ダンスバトル」やゲストのパフォーマンスに会場は大盛り上がり。連日の熱いステージに出演者も観客も大いに沸いた。

TOPIC-3

明るい雰囲気の中で
学生たちの国際協力を紹介。

国際協力における学生たちの活動を紹介するイベント、『LET'SちょっとChat!〜静岡発!学生だってできる国際協力量〜』が7/7、展示ギャラリーで行なわれた。学生たちの手づくり感いっぱいの会場は、来場者の高い関心と多くの笑顔を集めた。

TOPIC-4

日本代表の座をかけて、
アマチュア最高峰の戦い。

7/22、大ホール・海で行なわれた『2007ダンススポーツグランプリin静岡』に、ジュニアからシニアまで日本のトップ選手が参加。グランプリラテン、インドアゲームズスタンダード選考会では、世界選手権代表の座をかけ、日本最高峰のハイレベルな戦いを展開した。

TOPIC-5

海上自衛隊 横須賀音楽隊
「ふれあいコンサート」。

「スマートでさわやかな音楽隊」をモットーに各地で演奏活動を行う海上自衛隊横須賀音楽隊が、7/28大ホール・海の舞台上に登場。行進曲からお子さま向けのメドレーまで、聴衆2,000人を魅了した。

TOPIC-6

歴史と文化を実観感動。
静岡浅間神社ツアー。

好評発刊中の『しずおかの文化』では、6/23、「静岡浅間神社 実観感動ツアー」を開催。通常では見ることのできない静岡浅間神社本殿や八千戈神社の立川流宮彫、大拝殿の狩野派による天井画などの解説を、八木編集長が行ない、静岡市の歴史と文化にふれる貴重な機会に参加者からは感嘆の声も聞かれた。

TOPIC-7

駐車場の混雑予想を
ホームページに掲載。

スペースの縮小から、催事によっては入庫待ちの長い列も見られるグランシップ駐車場。こうした問題から開演に遅れることのないよう、グランシップでは、ホームページ上に駐車場の混雑予想日を掲載。



来館予定日の事前確認のほか、公共交通機関の利用等にぜひ、ご協力を。

[HPアドレス] <http://www.granship.or.jp/>

TOPIC-8

県内の文化情報が一堂に。
リニューアル進行中。

「グランシップに行けば、県内文化施設の催事情報がわかる。」を合言葉に、グランシップ1階の情報ラウンジをリニューアル。県内各施設のイベント情報の他、財団の刊行物や新聞各紙の文化関連記事をスタンバイ。また、このたび飲料自動販売機も一台増設。ちょっとしたブレイクにもご利用を。

GRANSHIP
SHOW-WINDOW ALBUM

毎回、若手クリエイターによるディスプレイを展開している大ホールショーウィンドウ。今年のテーマは「大地・海・風」。その第3弾は、常葉学園大学造形学部の学生によるディスプレイ。9月下旬まで展示予定。



タイトル/
『face to face』
制作/sculpture4



タイトル/
『REPAIR THE EARTH (地球の修理)』
制作/チーム17C

1

展示会の開期は?

A
1週間
以内

B
2週間
以内

2

受付スペースは
ゆったりほしい?

A
YES

B
NO

3

大型の
展示物がある?

A
YES

B
NO



1001会議室



床面積 450㎡

吊り物バトン 3カ所

司会者台、仮設ステージの設置もOK。
グランシップケータリングサービスによる
パーティーも可。

大ホール・海



アリーナ面積 1,720㎡

天井高 57.6m

吊り物バトンあり

アレンジ自在なホール空間は、自然光
による採光も可能。楽屋(有料)18室
のほか、ホワイエ、ドリンクコーナーも。

4

控室は必要?

A
YES

B
NO

5

団体で開催?
それとも個人?

A
団体

B
個人

会議ホール・風



床面積 405㎡

控室 41㎡・ロビーあり

吊り物バトン 1本

2層吹き抜けで、東側のスライド式壁面
の開閉により窓越しに景観も。控室、受
付あり。

交流ホール



床面積 432㎡

フローリング床

吊り物バトン 4本

落ち着いた照明の会場で飲食もOK。
付属のロビーあり(備品なし)。

展示ギャラリー 1



床面積 425㎡

壁面高 5.9m

壁面長 76.0m

ジャンルにとらわれない、多彩な作品発
表スペース。展示空間を自由にアレン
ジできる可動パネル(幅4.6m×高3.8m)
12枚あり。

展示ギャラリー 2・3



床面積 各113㎡

壁面高 3.6~2.9m

壁面長 64.2m

少人数での展示会に最適。展示ギャ
ラリー1と合わせての一体利用も可。

施設ご利用についてのご案内

備 品 紹 介

展示パネル（有料）



組立式の大型
(90×240cm)
パネルは、ブ
ースづくりや空
間を仕切る際
に便利。

キャスター付パーテーション



90×180cmの
パーテーション
は、移動に便
利なキャスター
付。

長 机



作品展示だけでなく、コーナーづくり
にも。45cm幅と60cm幅の2種類あ
り。(長さ180cm)

インターネット



本ページ紹介の全会場でインター
ネットの利用可。パソコン・LANケー
ブルはお持ち込みを。

施設利用料金表

名 称			使用料（単位：円）					
			午前 （9時～12時まで）	午後 （13時～17時まで）	夜間 （17時30分～22時まで）	午前～午後 （9時～17時まで）	午後～夜間 （13時～22時まで）	全日 （9時～22時まで）
大ホール・海	入場料なし及び 1,000円以下	平 日	56,000	85,000	127,000	141,000	212,000	245,000
		土日休日	68,000	102,000	152,000	170,000	254,000	293,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平 日	75,000	113,000	169,000	188,000	282,000	325,000
		土日休日	90,000	136,000	203,000	226,000	339,000	391,000
	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平 日	94,000	141,000	211,000	235,000	352,000	406,000
		土日休日	113,000	170,000	254,000	283,000	424,000	489,000
	入場料 5,001円以上	平 日	113,000	170,000	254,000	283,000	424,000	489,000
		土日休日	141,000	212,000	317,000	353,000	529,000	611,000
展示ギャラリー 1			7,200	9,600	10,800	16,800	20,400	27,600
展示ギャラリー 2・3			2,100	2,800	3,200	4,900	6,000	8,100
交流ホール	入場料なし及び 1,000円以下	平 日	20,000	30,000	44,000	50,000	74,000	85,000
		土日休日	24,000	35,000	53,000	59,000	88,000	102,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平 日	26,000	39,000	59,000	65,000	98,000	113,000
		土日休日	32,000	47,000	71,000	79,000	118,000	137,000
	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平 日	33,000	49,000	74,000	82,000	123,000	142,000
		土日休日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
	入場料 5,001円以上	平 日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
		土日休日	49,000	74,000	111,000	123,000	185,000	213,000
会議ホール・風			36,900	49,100	55,300	86,000	104,400	141,300
会議室1001-1			10,200	13,700	15,400	23,900	29,100	39,300
会議室1001-2			15,300	20,500	23,000	35,800	43,500	58,800

1. 商業宣伝、営業等を目的として使用する場合は、大ホール、交流ホールについては、「入場料3,001円～5,000円以下」の区分を適用し、
その他については、当該区分の額に100分の200を乗じた額とします。
2. 練習、準備または撤去のために使用する場合は、大ホール、交流ホール、会議ホールについては、「入場料なし」の区分の額に100分の50を乗じた額とします。

おしらせ

グランシップは、施設の定期点検のため、
下記の期間全館休館となります。
施設使用にかかわる予約受付等の
事務処理も休館中は行いませんので、
皆様のご理解とご協力をお願いします。
(図書館コーナー、情報ラウンジ、カフェ、
レストランもお休みです。)

平成19年 10月 1日(月)～ 2日(火)
11月26日(月)～ 29日(木)
12月18日(火)～ 21日(金)
平成20年 1月16日(水)～ 18日(金)
平成20年 2月 休館日はありません。
平成20年 3月 休館日はありません。

ご利用についてのご案内

【申込受付】
午前9時～午後8時 ※開館時間／午前9時～午後10時

【申込方法】
電話、FAXまたは当財団窓口にて。受付は先着順ですが、同時
申込の場合や受付開始初日の午前9時～10時に申込が重複
した場合は抽選となります。

お申し込み・お問い合わせ

TEL 054 (203) 5713 FAX 054 (203) 6710

財団法人 静岡県文化財団 利用サービス課 〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 メールアドレス:yoyaku@granship.or.jp

施設の空き状況は、ホームページでも検索OK! <http://www.granship.or.jp>

【申込受付時期&連続使用可能日数】

施 設 区 分	受 付 開 始 日	連 続 使 用 可 能 日 数
国際会議や 全国規模のコンベンション	随時	
大ホール、中ホール	利用開始日の 2年前の月の初日	14日
会議ホール、交流ホール、 映像ホール	利用開始日の 1年前の月の初日	7日
展示ギャラリー	利用開始日の 1年前の月の初日	14日
会議室、リハーサル室、 練習室、グランシップ広場	利用開始日の 半年前の月の初日	7日



グランシップは全館禁煙となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

グランシップの運営にボランティアの立場で参加する「グランシップサポーター」が、それぞれの心意気や感想、体験談をレポートします。

SUPPORTER's VIEW

グランシップは前進する。

第7期サポーター 撮影業務担当 成瀬 勇

平成16年4月「宮廷楽士の仲間たち」。それが最初に担当した撮影業務でした。

あれから4年。この間、担当した撮影は30数回にも上ります。それまでグランシップに会合で利用したのみ、「文化・芸術のグランシップ」であることを撮影サポーターを通じてはじめて知りました。「ジャズ・ライヴ」「静響コンサート」「しずおか連詩の会」「おとみち」「静岡能」「高松宮妃のおひなさま展」をはじめ、オペラやマーチング、歌舞伎、人形浄瑠璃、寄席、写真展や講演会など。グランシップは、県民の文化・芸術・芸能・伝統を広く伝えていくことを、肌身で感じています。

今年、グランシップは9年目に入りました。これから10年、20年と、グランシップは県民のさまざまな思いを乗せて、思い出づくりの場として、大海原へますます前進することでしょう。私も多様な記録写真が未来に役立つよう強い使命感で日々業務に努力しております。文化財団のスタッフ共々、前進してまいりますので、ぜひグランシップへ来てくださ。そして、利用してください。

心よりお待ちしております。



Report 039

READER'S VIEW

●大岡信氏、連詩。興味深く拝読。先に情報として得ていれば、足を運びたかったと思いました。大学では文芸科。「ことは」大好きです。(中略)貴誌は、帰省した折、町の図書館から頂いてきますが、大抵母が頂いてきて大阪へ送ってくれます。〈大阪府・鈴木望生さん〉

●静岡に久しぶりに来て、この「G」初めて読ませていただきましたが、感激です。まず表紙。この中世ヨーロッパの宗教画のような画はいい!!(中略)バックナンバーがあれば読んでみたいです。

〈浜松市・今村さん〉

●NHKの「スタジオパーク」の中で、時折外国や日本の文化芸術のお話を熱く話されていた田村孝子さんが二代目のグランシップ館長となられると知った時、思わず「ナルホド！スゴイ！」と思いました。頑張ってください。

〈静岡市・ソチでドッチさん〉

●3月に神奈川県から引越してきました。首都圏にいたのでこれからは国内外の芸術を身近に感じ、会場へも気軽に足を運ぶようになるだろうと思っていました。が、グランシップのような施設があることがわかってよかったです。子どもが小学生なので様々な芸術に触れる場としてこれから利用していきたいです。Vol.35新館長の記事には共感しました。これからのグランシップに期待しています。

〈静岡市・星野友美子さん〉

★グランシップおよび本誌「G」に関する「意見、ご感想、お問い合わせなど、皆さまからの便りをお待ちしています。なお、お寄せいただいたお便りは、本コーナーに転載させていただくこともあります。転載不可の方は、その旨明記の上、お送りください。

Editor's room

大ホール・海からリハーサル室、広場とグランシップでは様々な施設を皆さまにご利用いただいております。ひとりでおけいこにも、いくつかの施設を使っただけの大規模な催しにもお応えできます。たとえば、11月の催し「世界お茶まつり」では緑日、見本市、コンテストに国際学術会議……世界のお茶やお茶文化を楽しみながら緑茶の味、静岡の魅力や再確認する催しとなるに違いありません。また、中旬には「ユニバーサル技能五輪国際大会」があります。障害のある方々の素晴らしい職能技能と同時に芸術祭も開かれます。盲目のピアニストの演奏やミュージカル上演、アート展示があります。40年前からアート活動を積極的に取り入れている島根県・いわみ福祉会・桑の木園、掛川市のねむの木学園の子どもたちのステージは、バリアは私たちひとりひとりの心にあることを気づかせてくれるに違いありません。多彩な施設を有効にご利用いただける様子もご覧いただけたと思います。主催事業では、お待ちかねの「立川談志独演会」、恒例の「しずおか連詩の会」とじっくりお楽しみいただけるプログラムをそろえました。どうぞ、秋の一日グランシップでお過ごしください。

グランシップ館長 田村 孝子

